

吉

野

川

松茂町
Matsushige Town

お

散

歩

紀

行



徳島県の空と陸の玄関、松茂町で水とたたかう歴史を探る

徳島県東部に位置する松茂町。徳島空港や高速バスターミナルがある、徳島県民にとっての空と陸の玄関口だ。町の東側は海に面している。

松茂町は、旧吉野川と今切川に囲まれた※デルタ地帯。たびかさなる川の氾濫や洪水とたたかいつつながら、先人たちは土地を干拓し、新田を開き、堤防を築き、生活や財産、農業を守ってきた。次々と干拓や開発が行われたのは、江戸時代。現在の松茂町笹木野の場合は、17世紀の中頃に、京都の豪商 みしませんさい 三島泉斎が、広大な かやの 萱野を干拓したのがはじまりと言われている。このように先人たちが守ってきた土地では、現在なると金時『松茂美人』の栽培がさかんに行われている。

松茂町を訪ね、私たちの命を守ってくれている徳島県消防防災航空隊 隊長、先人たちの水とのたたかいを知ることができる松茂町歴史民俗資料館 学芸員、『松茂美人』の生産者、それぞれの方に話を聞いた。

※デルタ地帯 三角洲のこと。河川によって運ばれた土砂が河口付近に積み重なることにより、形作られた地形。

何よりも尊い生命を救うために 徳島県消防防災航空隊



消防防災ヘリコプター「うずしお」JA109R

「うずしお」の救助訓練の様子 写真提供：徳島県消防防災航空隊

松茂町の徳島飛行場内にある「徳島県消防防災航空隊事務所」。日々そこで、救急、救助、消火、その他の航空消防業務に従事しているのが徳島県消防防災航空隊だ。ここに配置されているのが、消防防災ヘリコプター「うずしお」。徳島県内一円を約25分でカバーし、現場に駆けつけている。今年の7月1日、穴吹川でアユ釣りをしていた男性が、大雨による増水のため中洲に取り残された。この時にも、救助要請を受けた「うずしお」が出動し、無事救助することができた。60cm程度の幅の足場しか残っていない危機的状況ではあったが、懸命の救助により、幸いにも男性にケガはなかった。



航空隊について教えてくださいました
徳島県消防防災航空隊 隊長

「うずしお」は、新居 実さん

平成10年6月に運航を開始し、現在まで、無事故での運航を継続している。飛行時間は4,700時間を超える。消防防災ヘリコプター「うずしお」の愛称は、県内在住者を対象にした公募により決定。「うずしお」は、力強く、逞しいイメージがあり、災害時にも人々に勇気と安心感を与える。機体のデザインも、藍や徳島の空と海をイメージした「青」と、スタチの花と鳴門の渦潮をイメージした「白」で、人の輪と飛躍を意味している。

平成28年度は救急18件、救助23件、消火2件、



徳島県消防防災航空隊事務所に待機している「うずしお」全長13m、全幅11m、全高3.85m。近くで見るとかなり大きい。「うずしお」の見学も事前申し込みをすれば、災害出動時や訓練時以外は可能だ。

危機事象発生時相互応援協定を結んでいる鳥取県での活動3件など46件の出動を行った。「空飛ぶ救急隊・救助隊・消防隊です」という新居隊長の言葉にも納得だ。

隊員は救命救助のエキスパートだ。空からの救急や救助、消火活動となるため、三次元的活動が必要となる。ヘリコプターからワイヤー1本で災害現場に降下する等、隊員自身にも危険が伴う中、1分1秒でも早く人命を救助しなくてはならない。事前情報よりも、現場では、さらに救助が困難な状況になっていることもある。移動している間も隊員は、最悪の状況も想定しながら、最善の救助方法は何か、張り詰めた空気の中で協議を続けている。現場に到着してから瞬時に状況を察知し、救急救助活動を行う。常に隊員同士が信頼し協力しあい、命がけで救助にあたっている。

搭載されている燃料で飛行できるのは1時間半。しかも刻々と状況が変わるため、時間が限られている。そのために重要なのが日々の訓練だ。1ヶ月のうち25時間は訓練を実施。毎回、訓練の後にも反省会を行い、救助技術を高める為の努力を続けている。訓練の場所はいくつかあるが、吉野川の阿波中央橋や高瀬橋近くの河川敷など、ヘリコプターが着地できる広い場所を選んで行っている。訓練の内容は、人命救助、林野火災等を想定した水を運ぶ訓練など多岐にわたる。実際にヘリコプターは、林野火災等の消



吉野川河川敷における空中消火用バケツを使用し
ての訓練 写真提供：徳島県消防防災航空隊



消火活動にヘリコプター
から運ばれている空中
消火用バケツ。吉野川
の水が利用されている。



吉野川河川敷での訓練
写真提供：徳島県消防防災航空隊

火活動の際に、吉野川やダムの水を使用している。「うずしお」で空中消火用バケツを活用し1度に搬送できるのは600リットルの容量だ。吉野川の水が、人々の生命や財産を守るため、さまざまところで利用されている。

「即時対応ができ、最初にかけることができるのが我々消防防災航空隊です。これからも、安全に留意し、切磋琢磨しながら活動していくのが使命です」と語る新居隊長。これからも、厳しい訓練を重ね、強い使命感を持った隊員たちの活動が続いていく。



徳島県消防防災航空隊隊員 若竹雄太さん

今年7月に増水した穴吹川で救助にあたった中の1名が若竹隊員だ。「救助現場に到着するまでは、足場がほとんどないと聞いていましたが、岩が長く、孤立していた場所で足元も見えて、無事に救助することができました。川遊びや釣りなど、川に出かける前には、天気予報やダムの放水量も必ず確認してほしいです。自分がある場所の天気が悪くても、川の水が濁ってきたら至急避難してください。鉄砲水など急激に水位があがり大変危険です」と話してくれた。自分の命は自分で守ろう。

「水」をテーマに町の歴史、民俗を展示している 松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館



学芸員の菅野将史さん。展示内容や、町内の敬諭碑についても教えていただいた。関東出身。「徳島は自然が豊かで暮らしやすく、吉野川など水資源が豊富です」と話してくださいました。

資料館の大きな特徴は、2つの大きなテーマに分けて展示されているということだ。1つは「水」をキーワードに歴史・民俗を紹介し展示している「水とたたかう松茂の人々」。もう1つは「阿波の人形浄瑠璃芝居」だ。

松茂町の大部分が戦国時代から江戸時代末期にかけて旧吉野川下流の低湿地を開発してきた土地だという。そのため、人々は水害や塩害と戦いながら生活を、生産への努力を絶え間なく行い、農業を守ってきた。

さらに展示を「哀しみ-自然の脅威-」「怒り-暮らしの知恵・工夫-」「喜び-実りと繁栄-」「楽しみ-生活の中の楽しみ-」というコーナーにわけて貴重な資料とともに詳しく紹介している。宝暦2年（1752）に建てられ、文化12年（1815）に補修された佐藤和之家を、松茂の典型的な農村型民家として常設展示室に移築・復元。これまでの歴史や人々の生活がよく分かる、じっくりと見学したい施設だ。



常設展示室の入口。今切川周辺の新田開発事業に取り組んだ三島泉齋を顕彰した石塔「宝篋印塔」がある。欠落部分を復元補修し展示している。



昭和36年の第二室戸台風のニュースを見る、当時の一般家庭を再現したジオラマもある。



松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館

〒771-0220 徳島県板野郡松茂町広島字四番越11番地1
TEL: 088-699-5995 FAX: 088-699-5767

入館料：無料 開館時間：9時～17時（木曜日 9時～21時）
休館日：月曜日（祝日にあたる場合は開館し、翌日を休館）
第3火曜日（祝日にあたる場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）



浄瑠璃（義太夫）が盛んな芸所で、人形浄瑠璃芝居も盛んであった松茂町。人形浄瑠璃芝居関係の展示も大変興味深い。



松茂町指定有形文化財 敬諭碑

松茂町中喜来春日神社の境内に残されているのが嘉永7年（1854）の冬に発生した「安政南海地震」について記された石碑だ。激しい揺れによる家屋の倒壊や火災、液状化現象と津波による田畑の冠水といった被害状況とともに、人々が助け合い避難生活を送った、当時の様子が記載されている。



吉野川流域 未来へ残すこの逸品



なると金時 松茂美人



ご自身の畑の前で、土佐誠治さん。現在、160アールの畑で松茂美人を作っている。そのままオーブントースターで焼くのが、一番おいしいとおっしゃる土佐さん。そのほか、カレー、シチュー、かき揚げなどもおすすめ。左の写真は土佐さんの松茂美人だ。



一面に広がる土佐さんのさつまいも畑。松茂町の農家全体の約7割がさつまいも農家だ。

食欲の秋。ほくほくとしたなると金時がおいしい季節となってきた。松茂町の農業は、もともと稲作が中心。しかし、土壌条件や塩害によって、十分な収穫量が確保できなかったことから、砂を入れて畑作に取り組むこととなった。その後、スイカ、じゃがいもと変遷があり、昭和30年代にさつまいも栽培が定着した。JAが『松茂美人』をお披露目したのが、平成3年。そのきれいな形と鮮やかな色、上品な甘さからその名がついた。

この『松茂美人』が作られているのは、吉野川河口域の砂地地域。この砂には、海のミネラルがたっぷり含まれていて、美しい紅色や上品な甘さの要因となっている。吉野川河口に位置しているため、豊富な水と、吉野川が運ぶ良質な砂を常に農作業に供給できているという。まさに吉野川の恵みだ。また、吉野川の運ぶ砂は、水持ちのよい柔らかい砂岩が3割、硬く水はけのよい緑泥片岩が7割と、さつまいも栽培に最適の割合となっている。

松茂町豊岡で『松茂美人』を育てている土佐誠治さん。代々農家を営み誠治さんで8

代目。土佐家でも、代々、お米、スイカ、じゃがいもを作っていたが、昭和39年頃からさつまいもを作り始めた。今年は、天気がよかったため、形がふっくらとして甘味も強いそうだ。

土佐さんの『松茂美人』は、甘い香りが鼻にぬける。ほくほくとして、口の肥えたファンからは、根強い人気がある。そのほとんどがJAを通じて、大阪に出荷される。3月の畝たてに始まり、4月上旬から6月半ばには、植え付けをする。収穫は7月半ばから始まり、11月まで続く。収穫までは、天候に合わせての肥料、スプリンクラーでの水やりを気に使う。これには旧吉野川の水が使われている。

「なんかみんな食べた人は、色がきれいでおいしいといってくれるな」と優しい笑顔で語る土佐さん。これからもこの松茂の地で、『松茂美人』を作り続ける。

※取材協力 JA大津松茂 松茂支所
TEL:088-699-2511

松茂美人は、県内スーパー、JA大津松茂 松茂支所直売所ふるさといち TEL:088-699-8595で販売。